

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『給食の大切さ』

埼玉県さいたま市立上木崎小学校 五年三組 女子 石渕 柊

私は、五年生の春に、仙台市からさいたま市に引っこして来ました。

まず、おどろいた事は、さいたまの学校給食は学校で作っている事です。仙台は給食センターが作っていて、大きなトラックで運ばれて来ていました。

こちらの給食は作り立てで、温かく、学校中に広がるおいしいにおいが食よくをそそり、三時間目からおなが鳴りそうです。

ですが、私は仙台でとてもき重な体験をしました。二〇一一年三月十一日の金曜日に、東日本大震災にそうぐうしてしまいました。

そのころ私は一年生でした。給食に出る野菜が苦手で、いつもへらしてもらっていました。特にミニトマトがきらいで二個配られるミニトマトを一個にしてもらっていました。それでも食べるのがやっとで、目をつぶり、いきおいをつけ、口に放りこみ、飲みこみ、好きなおかずで口直しをして食べていました。

しかし、あの日を境に私の周りの環境は、すっかり変わってしまいました。

四月になり、新しい学年が始まりました。学校の体育館はまだひなん所で、たくさんの方が家に帰れずに生活していました。学校では、こまっている人に、おにぎりなどを提きようしていました。

毎日の授業はお昼までで、楽しみにしていた給食は、なかなか始まりませんでした。震災で農家も漁業も工場もひ災してしまい、道路もすん断し、交通もまひしてしまいました。ガソリンも不足し、物が足りないじよう態が続き、給食を作るじようきようではなかったと思います。

たくさんの方の助けもあり、じよじよにふつうの生活がもどって来ました。給食だけはいつもと違いました。

これまでの給食のように、ご飯やパン、めん、おかず、スープ、果物、牛にゆうなどのメニューはなくなり、毎日パンと牛にゆうのみ配られ、おかずは家からお弁当箱に何品かつめた物を給食で食べるじようになりました。それでも毎日のパンの種類を日によって変えてくれていました。私たちがあきないじようにと作ってくれている方も、物がない中努力してくれていると思えました。そしてなによりお友達といっしよに食べる給食はおいしくて楽しかったです。

これまであたりまえだと思っていた事が、あたりまえではなくなった時、初めてその大切さに気がついた感じがしました。

毎日の給食をお肉や魚や野菜など、たくさんの方の食材を使い、バランスよくメニューを考えて作ってくれているのに、きらいだから残したり、へらしたりでは作っている人に、もうしわけないです。自分のためにもならないと思えました。これまであたりまえの給食が今ではとても大事な給食になりました。